

教師に求められる資質・能力は何か。

その向上のために学校組織として何をすべきか

2022年12月の中央教育審議会の答申において教師に共通的に求められる資質・能力が再整理され、文部科学省は教師の主體的な学びを

支援するための研修システムを導入した。生徒の学びとともに、教師自身の学びも、「個別最適な学び」と「協働的な学び」とを一体的に充実した

「主體的・対話的で深い学び」への転換が求められる中、学校組織として教師の学びを充実させていく上での課題とは何か。教師の声を基に整理した。

教師に共通的に求められる 資質・能力の5つの柱

2021年1月の中央教育審議会の答申（*1）で示された『令和の日本型学校教育』の実現に向けて、中央教育審議会の『令和の日本型学校教育』を担う教師の在り方特別部会²では、教師の養成・採用・研修等のあり方について議論してきた。その結果、教師に共通的に求められる資質・能力の柱が、①教職に必要な素養、②学習指導、③生徒指導、④特別な配慮や支援を必要とする子どもへの対応、⑤ICTや情報・教育データの活用等の5項目で整理された（図1）。加えて、管理職に求められる資質・能力については、教師に共通的に求められる資質・能力を基礎とした上で、学校内外の環境に関する情報の収集や分析といったアクセス

メントや、学校内外の関係者と協働して学校の教育力を最大化するファシリテーション、教師個々が力を発揮するマネジメントなど示された（図2）。

そして22年12月に公表された答申（*2）において、教師自身の学びも転換を図るなど、新たな教師の学びの姿（P.3参照）が示されたことを受け、その実現に向けた方策として、文部科学省は24年度、研修の受講や受講履歴記録の作成を一元的に行うことができる「全国教員研修プラットフォーム（Plant）³」を構築した（図3）。

管理職に求められるのは、学びの 目的の明確化と対話の場づくり

教師の主體的な学びの組織的な実現に向けては、本誌の読者モニターアンケートにおける教師の声や今号の取材

を通じて、次の課題が浮かび上がってきた。

【課題1】教師個々の課題や悩みについて他の教師に相談することができ、機会をつくる

「同僚と教育論や指導方法などについて議論する機会が減った」「教師としての資質・能力の向上といった問いについて、校務に追われて教師間で議論する余裕がない」などの声から、教師間の対話が少ない状況がうかがえた。多様な教師のかかわり合いをどのように設けるかが課題の1つだと言える。

【課題2】自校の教師として必要な資質・能力を明確化し、学校全体で共有する

生徒主体の授業へと転換が求められる中で、授業づくりに戸惑う教師もいる。具体的には、「生徒から主体性を引き出し、生徒の成長を支援するため

に教師に求められる資質・能力が何かを、自分も含めて十分理解できていないと思う」「管理職が教師の資質・能力の向上をあまり意識しておらず、現場の教師も自身の学びを重視していない」といった声が聞かれた。学校として自校の教師が身につけるべき資質・能力を明確化し、全教師で共有することも課題の1つとして挙げられる。

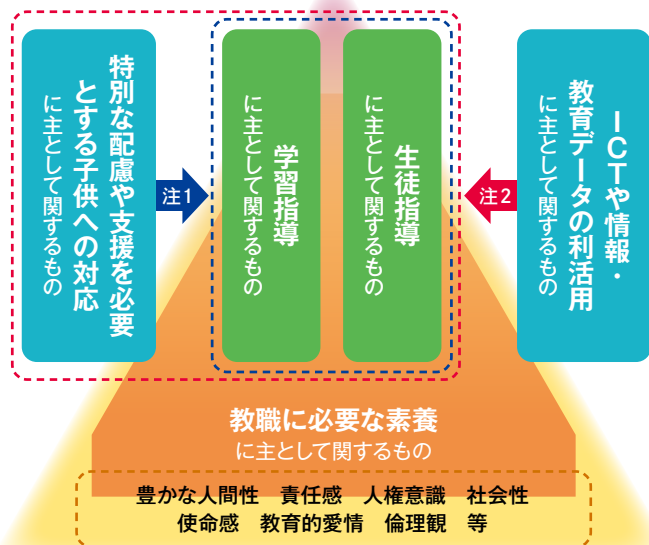
【課題3】チームとして自校の教師に求められる資質・能力を発揮する

「教師の経験の差から出る指導のばらつきは、研修だけでは埋められない」「ICTや情報の活用については、熱心な教師とそうでない教師に乖離がある」といった声も聞かれた。教師一人ひとりの強みや弱みを踏まえ、チームとして自校の教師に求められる資質・能力を発揮するためにはどうすればよいかを考えることが求められる。

* 1 『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）。

* 2 『令和の日本型学校教育』を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について～『新たな教師の学びの姿』の実現と、多様な専門性を有する質の高い教職員集団の形成～（答申）。

図1 「令和の日本型学校教育」を担う教師に共通的に求められる資質・能力



※上記に関連して、マネジメント、コミュニケーション（ファシリテーションの作用を含む）、連携協働などが横断的な要素として存在

注1 「特別な配慮・配慮を必要とする子供への対応」は、「学習指導」「生徒指導」を個別に行うものとしての位置づけ。

注2 「ICTや情報・教育データの活用」は、「学習指導」「生徒指導」「特別な配慮や支援を必要とする子供への対応」をより効果的に行うための手段としての位置づけ。

※文部科学省「公立の小学校等の校長及び教員としての資質の向上に関する指標の策定に関する指針に基づく教師に共通的に求められる資質の具体的内容」（2022年8月）を基に編集部で作成。

図2 「令和の日本型学校教育」を担う校長等の管理職に求められる資質・能力

様々なデータや学校が置かれた内外環境に関する情報について
収集・整理・分析し、共有すること
（アセスメント）

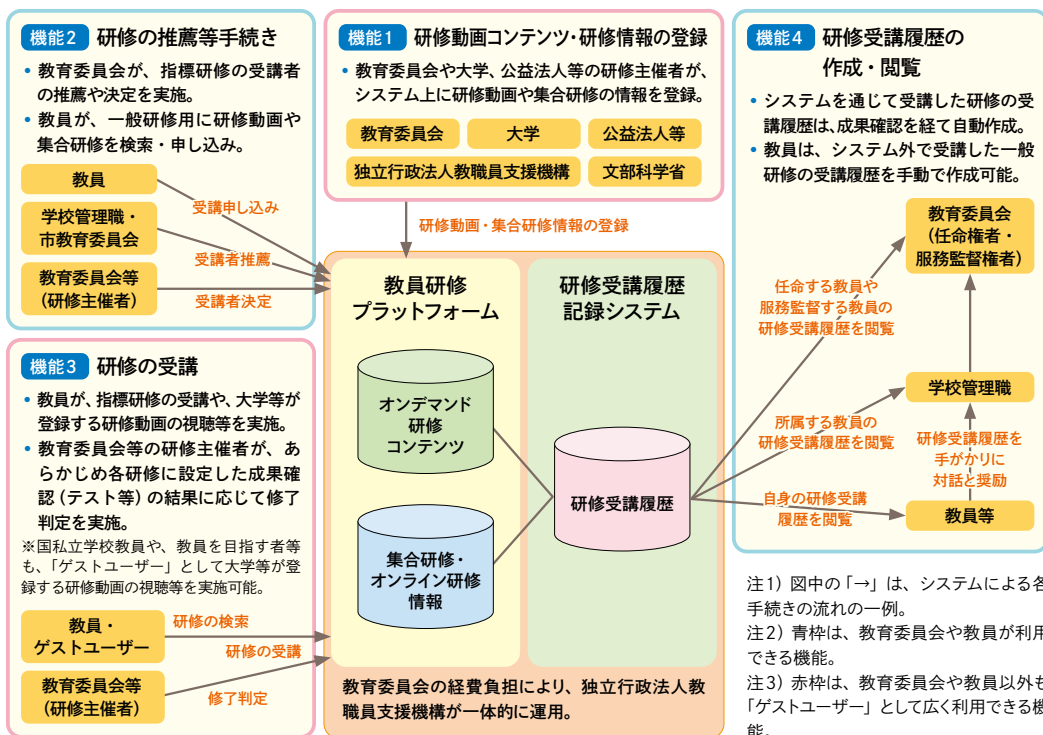
学校内外の
関係者の相互作用により、
学校の教育力を最大化していくこと
（ファシリテーション）

職場の心理的な安全を確保し、
働きやすい職場環境を
構築するとともに、教職員それぞれの
強みを生かし、教師の働きがいを
高めていくこと

※中央教育審議会『「令和の日本型学校教育」を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について～『新たな教師の学びの姿』の実現と、多様な専門性を有する質の高い教職員集団の形成～（答申）」（2022年12月）を基に編集部で作成。

図3 「全国教員研修プラットフォーム『Plant』」の主な機能

次ページからは、右ページで挙げた課題に取り組む学校を紹介する。各校の実践を通じて、本特集の問いである「主体的に学び合う教師集団をどうつくるか？」の答えを明確化していく。



注1) 図中の「→」は、システムによる各手続きの流れの一例。
注2) 青枠は、教育委員会や教員が利用できる機能。
注3) 赤枠は、教育委員会や教員以外も「ゲストユーザー」として広く利用できる機能。

ワンストップ化された多様な研修の申し込みから受講、修了判定、教員育成指標と連携された研修受講履歴の自動作成など、各種機能を備えたシステムを構築し、活用を推進することにより、「新たな教師の学び」の効率性・効果的な実施に資する。
※中央教育審議会「多様な専門性を有する質の高い教職員集団の形成を加速するための方策について（諮問）」（2024年12月）の参考資料を基に編集部で作成。